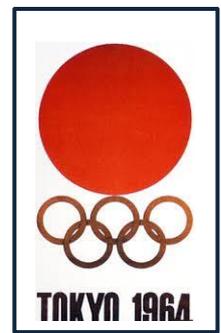


1964年東京オリンピック聖火 藤沢分火コースを歩く



八柳 修之

2020年東京オリンピック開催まで一年余となり、5月9日、チケットの予約販売が開始され、6月1日には聖火リレールート概要が公表された。そのうち、オリンピックを盛り上げる聖火リレーも日本各地から新国立競技場を目指して走り出すであろう。

前回1964年の聖火は8月21日ギリシャのヘラ神殿で採火され、アジア各地を経て9月21日沖縄に到着。4つに分けられ東京国立競技場を目指して45都道府県をリレーされた。神奈川県は東海道を北上する第二ルートで、藤沢市には10月7日、国道1号線、諏訪神社前で茅ヶ崎市から受け継がれ羽鳥バス停前、台町バス停前、市役所入口、藤ヶ谷バス停前、龍口寺前と引継がれ江ノ島まで11.6kmをへて腰越橋で鎌倉市へ引継られた。これとは別に開催会場となる県ではオリンピックを盛り上げるため分火リレーが行われた。



セーリング会場となった藤沢市でも開会式の翌日の10月11日、聖火が相模工業学園（現湘南工科大学）にヘリコプターで運ばれ、出発式のあと江ノ島を目指して5人のランナーによってリレーされた。記録によると16:50相模工業学園を出発し、国道134号線を北上し、湘洋中学前、東急レストハウス、観光センター前を経て、江ノ島ヨットハウス前17:20（5.5km）、最終走者は桟橋からボートに乗って中央防波堤に造られた聖火台に移動し、内山県知事の点火宣言と共に17:30に点火された。

分火コースは僅か5.5km、その大半は134号線を歩く単純なコースであるが、思い出と共に何か新しい発見があるかもしれない、少しくどいがマイペースウォークの記録である。



相模工大〈現湘南工科大前〉



YRコース マンション VERENA 前

藤沢駅北口から神奈中バス辻堂駅行きに乗り浜見山で下車、海側に向かって5分ほど歩くと湘南工科大学校門である。聖火は大学校庭に国立競技場から分火してヘリで運ばれたのだが、構内に入って見たいとも言えぬ小心者でスルー。湘南工大の前身相模工業学園は創立1961年、創設者は現在も総長・学長を務める糸山英太郎氏。海へ向う通りは昭和通り（308号線）といい食堂やオシャレなお店がある。やがて鵜沼蓮池方面からのYRコース、マンションVERENAと交差する。



国道134号線浜見山交差点横断橋から下り方面



同、上り方面を望む

コンビニ全盛の中、西友ストアを右手にみて国道134号線浜見山交差点に出た。歩道橋を上ると富士山、烏帽子岩、江ノ島が望まれるビューポイント、藤沢の景観中辻堂の10景にも選ばれている。角には藤沢市漁協の「湘南はまぐり」のぼり旗がひらめく。聞くと毎月第1、3土曜日のハマグリ、シラスなど魚介の直売は人気があるという。浜見山交差点を上り方面へ。134号線は4車線、横須賀市を起点に大磯町に至る約60kmの一級国道。両側は松林である。この松林の中らかつて新種のランが発見されクゲヌマランと命名されたそうだが、今は絶滅危惧種となっている。歩道橋があり湘洋中学前江ノ電バス停があったが一日2本しかない。松林の間から校舎が見られた。江ノ島へ4km、鎌倉11kmの表示。ここから先、道路左側は住宅地となった。64年オリンピック当時は松林だったであろう。まつなみコーヒーという喫茶店があったが手前に自販機があったのでスルー。この地点、海へ出る地下道になっていて潜ると松波バス停である。



その先は、引地川への龍宮橋入口交差点、角に「鵜沼村の溺死諸清〇〇、明治〇年」角にはサーフショップがあった。溺死者についての記録がないが相当数の死者があった事であろう。ここから家なみが続き、右にスケートパークが見える。以前、鵜沼プールガーデンであった所でバス停のみに名が残る。



引地川河口鵜沼橋から望む江ノ島

134号線鵜沼橋横断歩道橋から上り方面を望む、

引地川河口に架かる鵜沼橋に出る。橋から見る江ノ島は角度の関係からか河口に見える。鵜沼橋横断橋から上り方面を望む海岸線のまち並みは松の防砂林、高さの揃った建物、海岸線を一望できる。この景色は藤沢の景観鵜沼の10景にも選ばれている。



ニエアル記念広場

サーフビレッジ入口



サーフビレッジ正面入り口

レストラン三笠会館

横断橋の下はニエアル記念広場。中国国歌の作曲者ニエアルが、昭和10年(1935)鵜沼海岸で遊泳中水死したのを悼んで昭和29年(1954)記念碑が建てられた。悪戯をされるのかいつもレリーフはビニールで覆われている。オリンピックでは嫌と言うほど国歌を聴かされることであろう。サーフビレッジ入口の表示、江ノ電バス鵜沼海岸のバス停がある。時刻表を見ると1日1本。これから先、湘南海岸公園エリア。左側、焼き肉屋さかいの焼肉の臭いが道路を越えて漂う。アンダーパスになっていてヤシの木とサーフビレッジが見える。左、フランス料理で有名な三笠会館は1973年の開業、一度は訪れておきたい所である。右側一帯は湘南海岸公園となっているが、1964年当時は「東洋のマイアミビーチ」と称し、海水浴を中心に夏場の観光地として賑わった。古い資料に

よると、江ノ電江ノ島オートパーク、小田急ビーチハウス、小田急シーサイドパレス、東急江ノ島レストハウス、江ノ島マリンランドがあったが、今は跡形もなくどこにあったのか分からない。



湘南海岸公園案内図



皇太子・美智子妃殿下御成婚記念碑



サーフ 90 周年記念碑



海の風テラス



片側松林が続く



高さが統一された建物景観

西部駐車場入口、左側の建物は高さがと統一され景観はグッド、ペットカフェもよいが、ラブホテルはいただけない。アフリカの人もびっくり、AFRICAとは何事か。皇太子殿下御成婚記念碑、太陽をかたどった円、内山知事揮毫。1959年4月10日、あれから60年、昭和、平成となり令和となった。1990年に建てた長洲知事揮毫のサーフ90周年記念碑もある。バス停小田急ショップ前、この辺りに小田急シーサイドパレスがあったのだろうか。現在は海風のテラスになっている。水族館まで5分の表示。松林の間から江ノ島が見えてくる。



お天気が良かったので一寸海岸へ



新江ノ島水族館横から江ノ島を望む



新江ノ島水族館



乃木大将像跡



藤沢市観光案内所

西浜歩道橋、地引網「殿網」の小屋、**新江ノ島水族館**とつづく。水族館は 1955 年（昭和 29）に設立されたが、2004 年（平成 16 年）現在の場所に移転し新発足している。その隣りは駐車場となっているが、その一角には戦後まで乃木大将像があった。乃木大将は退役後、昭和天皇の教育係として学習院の院長となり、学習院の水泳場が鵜沼海岸に設けられたことから建てられたが、現在は台座の石とその跡があったことを示すプレートがあるのみである。隣りは**藤沢市観光案内所**、聖火引継ポイントであった。館の前に「関東ふれあいの道⑥湘南海岸・砂浜のみち」スタートの標識がある。柳島まで 10.2 km。の池内淑皓さんが「関東ふれあいの道」を連載しています。こちらを歩く方が楽しいかも。



江ノ島入口



江ノ島大橋(自動車専用橋)

引地川河口に架かる片瀬橋を渡ると江ノ島入口、右折して聖火ランナーは自動車専用橋の江ノ島大橋を渡った。江ノ島大橋は、東京オリンピックの前年の 1963 年に自動車専用橋として建設された。2 車線であるが、現在 3 車線に拡幅中である。橋梁部は 324m、幅員は中央分離帯が無くなり 10.8 m から 12m に、1m 幅の自転車通行空間が設けられる予定である。（藤沢市資料）



江ノ島・北緑地 オリンピック記念噴水池



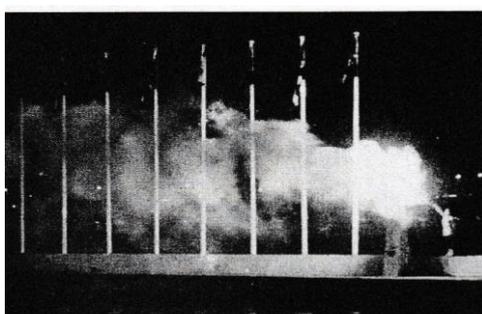
ヨットハウス



1964年オリンピック聖火台



台座部分にあるプレート



聖火の点火



江ノ島大橋を渡って左側南詰は北緑地、オリンピック記念噴水池、弁財天を中央に世界美女5体が配置されている。その先、江ノ島湘南港ヨットハウスがある。屋上展望台から見る景色は最高である。ヨットハーバーに面した所にオリンピック聖火台があるが、ここに聖火台があったのではないらしい。「藤沢市文書館資料展（2014年10月14日）配布資料によると、聖火最終走者は棧橋からボートによって中央防波堤に造られた聖火台に移動し、内山知事の点火宣言と縣警察音楽隊のファンファーレのもと、17時30分に点火された」、とある。

最後下段写真は分火コース第5区走者 田辺政行氏寄贈のユニホームと聖火トーチ
(秩父宮記念体育館蔵)、

また、蛇足ながら江ノ島が1964年東京オリンピックのヨットに選定された事情について、「戦後、片瀬東浜の侵食が問題化し、県は沿岸流が原因であることが分かり、昭和34年に堤防を利用した築港計画を立案。また大島航路を誘致することで新しい玄関口として年間を通じて集客が可能となると考えた。当初、ヨット競技場候補地として横浜市富岡海岸が候補に挙がったが、米軍の接収地であったため挫折。県は湘南港の建設について東浜の侵食防止、大島航路、オリンピック競技会場の一石三鳥、観光振興になることで決まった。また松下電器（現パナソニック）から東浜沖に海上大鳥居を寄進するとの申し出があったが、国の史跡名勝に指定されていることから、江ノ島南詰に世界女性群像池の設置となった」 完

追記：

1964年東京オリンピック陸上競技 50 k m競歩に出場された江尻忠正さん（FWA第2代会長）の随筆、「2,020 東京オリンピック開催によせて」が、「ひろば」25年11月に掲載されています。

参考・引用資料・文献

「東京オリンピックとふじさわ」平成26年度藤沢市文書館資料展資料

「湘南の誕生」編著 湘南の誕生研究会 発行：藤沢市教育委員会

「藤沢市文化財ハイキングコース」藤沢市教育委員会